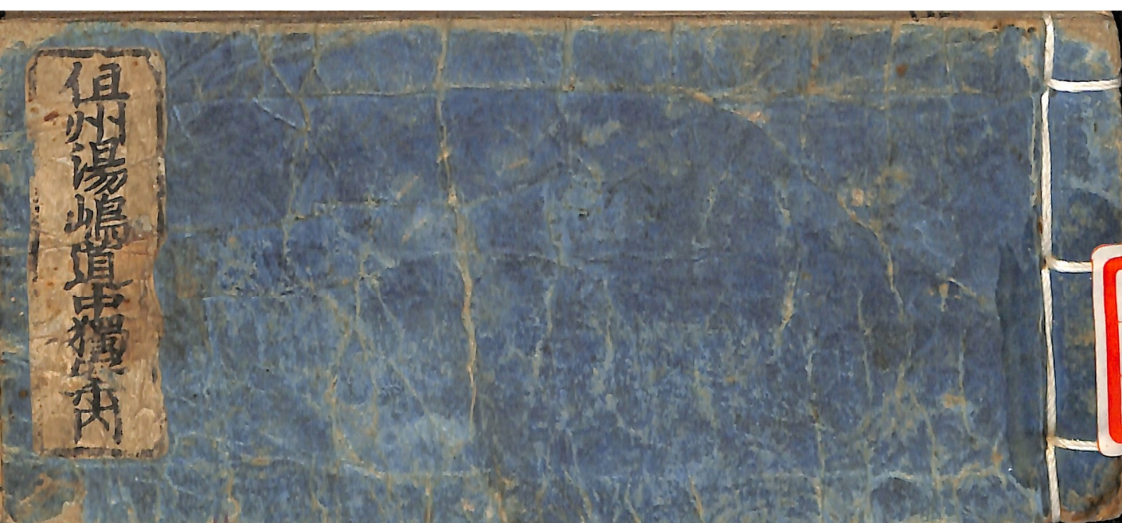
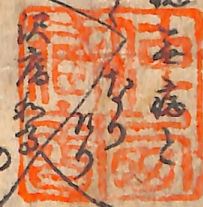




山形県立博物館蔵

もみれは方の
温泉と漬るる
温泉の湯
入おの
後れを

法病を治す



三月の入湯

写。新元とて

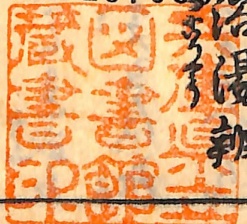
片指

あつ
七

但州城崎浴場辨

○四禁

137035



一秋湯すゆき事

湯はハヤムより

人一日ふ二三度

人四五度と定む

をよりけりて是

多く入ふと秋湯

一沖れ湯に入

い酒は細き人

辨

きかちり

一色無情にささる

一保音破海下きる

ん持身にあらうい合お

のあふひ酒食に情風ひ

かすはふ入やうの月公ホ

そら下にくる

右四禁とん右東あふの

湯入へくあうらう或る

身を失ふ人まらふ此

四禁然をむらふやう

て悪うけバ湯治よりんを

する人。すう此書を熟讀し

て四禁の理を明白にせぬ。

而後教受すべきものや

○地形の大煮

温泉に石炭湯治といひて

但るれ圓城勝なり。なる

筋あり

播磨縣 大坂より湯治を

三田縣 大坂より湯治を

福智山縣 大坂より湯治を

右のふまの道も。冬間と云

ふま。豊岡より三里川下ん。

後藤氏此のみ来り。とて
くく試み深く考てあへ
けり。云ぬ。此の湯。うとま
けの湯。押白湯なり。決
して。初。ゆを。ゆ。ず。と。定
め。れ。し。う。其。嗣。松。庵
門人。秀。庵。其。の。地。じ
る。書。に。追。く。は。ま。び。う。よ
解。せ。し。と。たり。さ。る。後。め。
其。同。其。奇。功。あ。る。を。知。り。て。
を。き。け。り。し。に。決。ま。し。と。い
ふ。に。さ。う。て。わ。り。し。と。い

かりぬ。入。せ。と。幕。湯。と。日
か。う。に。互。ら。が。ひ。に。入。し。
思。ふ。に。幕。を。い。ち。中。の
あ。ん。ど。と。灯。を。と。が。し。男
女。左。右。に。分。け。湯。女。を
を。制。し。て。ゆ。は。じ。大。体
湯。れ。功。能。を。結。締。筋。骨。の。間
の。深。で。通。じ。大。体。を。温
め。る。血。を。巡。ら。せ。る。胎
毒。瘰。癧。毒。を。い。ち。自。然。と。其
毒。退。き。し。瘰。癧。を。生。じ。て。瘰
癧。を。切。取。る。に。其。不。う。と。は

つて後を。あつて一旦難
き事をあらとあれど。是あ
たれ巡すすやたらんが。
終る病の根を抜く。去相
ありと。合点とを。あ
道理を考へ字長く入る
ふはひ。あつて先づ中
は毎氣出るぬむ。其後
相長病自はふつとと表
るな。

○温泉の次

○新湯一の湯

赤川先生。薬選ふつと。
但品城崎新湯の穴上玉
極天下第一の温泉なり
と云。

○二の湯

其源新湯なり。功徳相
同。

○この湯

其源三の湯より。

○新湯

葉選といく。瘧湯を

瘧と云ふ。瘧湯外患をり

ての病人へ其功をとり

有り。志くれば。其後心の

痛有る人へ毒を追也

瘧疾は二三日を過るべし

事なり。

○常湯 上湯

は湯。新湯より好むべ

し。いふれども。いふべ

たり。

佛ふれ湯

世若。御ふ。貴人方。

法入湯。あり。元禄

の世なり。あつては御所

に名。こもる。か。ん。れ。

あ。い。や。う。整。胃。た。う。

又。乃。たり。

曼陀羅湯

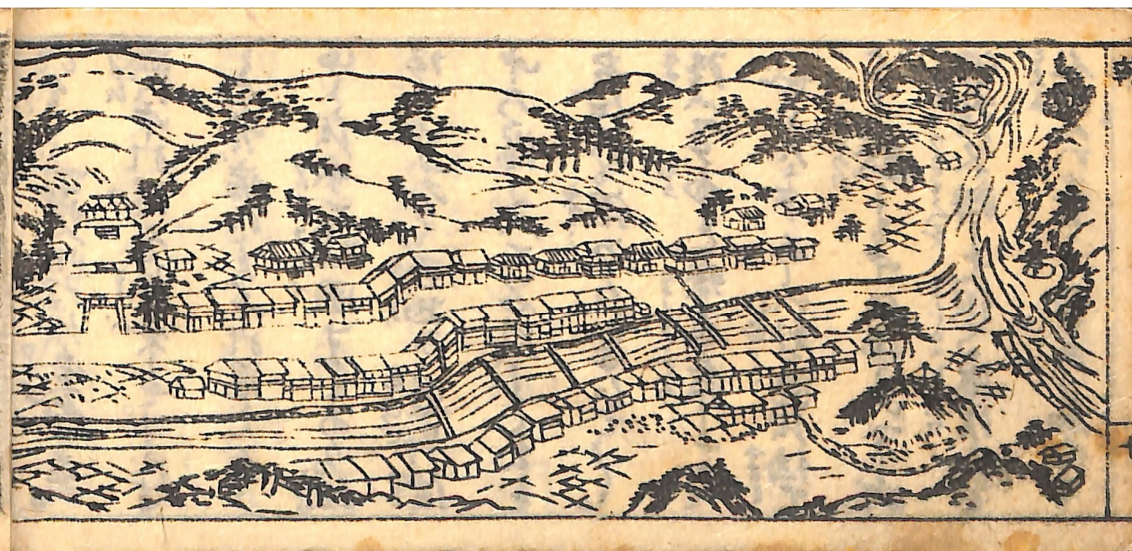
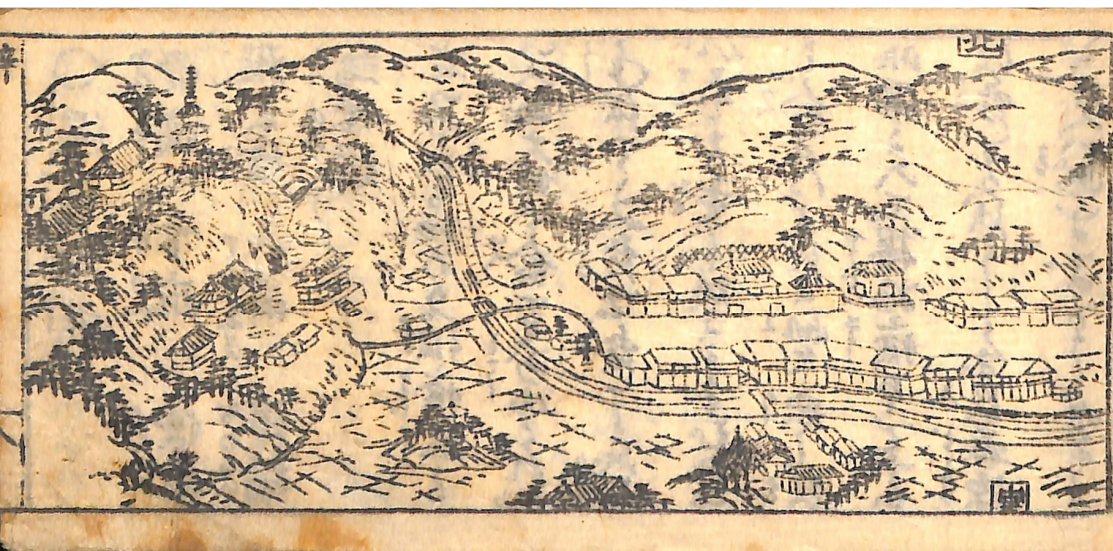
は湯。因。山。道。智。上人。

曼陀羅を掛。け。し。

垢。う。ま。い。を。ま。ん。だ。ら

の名。あり。恒。家。の。け。り。

て。曼。湯。なり。



あぐてけする病痼疾と云々
之を針灸其餌れ功を
き病を治す氣血和ら
積る病氣を治する
明なる道理なり。女
ざる。医人もさういふや。
婦人の經痛。下を治とよ
はてふ。女陽治れ後
脈すほくさ。按り有る。
此の陽脈。紀の龍神考乃。
陽も。お腹に功なり。此陽
に及ぶ。此此陽脈家。日本

至極

○湯治法

先陽のに陰。其板間と。
湯を温め。妻座して。い
を。湯を温め。両肩
背。後。お腹に。湯を
小児。水。あ。び。す。わ。く。て
後。湯。あ。び。す。わ。く。て
を。あ。び。す。わ。く。て
湯。あ。び。す。わ。く。て

陸今ん成豊に持氣を對
免る。さしむさるる。日
日ありきとす。若眠人
かて。たまに昼寐だ。
旅おを。着て。安風。し
也。後。入。湯。治。る。を。
表。氣。ひ。き。用。ひ。た。や。す。け
ま。ば。や。う。浴。衣。着。ち。か。う。
お。後。う。ち。と。す。人。か。う。は。
を。じ。ま。づ。人。か。う。す。老。弱。
人。一。日。に。二。三。度。壯。健。人。
四。五。度。ふ。べ。う。に。湯。敷。と

の。へ。て。湯。敷。と。の。ふ。あ。う。に。
只。日。敷。を。入。る。一。太。さ。乃
人。二。三。回。と。さ。う。に。湯。敷。人。
長。と。さ。う。に。湯。敷。人。と。も
め。な。れ。ど。さ。う。に。湯。敷。と。も
人。ま。る。な。さ。う。の。痼。疾。な
ま。だ。い。く。で。速。功。め。い。ま。や。こ
中。日。より。お。は。す。年。一。の。俗
分。其。病。金。る。休。期。と。す。ぐ
一。お。は。す。災。大。ま。ち。う。る。人。じ
ま。づ。う。入。て。さ。う。と。さ。う。と。も
め。な。れ。ど。日。に。い。く。と。も。湯。敷

腹痛病と云ふ。又ハ月をいふ。身つ
ふさふさの。いふ。たれ戒て。秋
湯すべからず。是四禁れ二

ちり

ちり

ハ湯と二三日後。胸後

すれ。食すむハ湯お無乃

ちり。之。不。お。應。う。た。び。必。死。

食す。但。其。時。二。日。休。む。

再。入。て。よ。れ。る。あ。り。う。た。れ。必。

食。す。む。續。て。入。り。て。口。

を。ぬ。れ。ぬ。く。不。食。た。り。は。

入。る。か。ず。病。治。せ。ぬ。れ。る。

ら。ず。書。あり

四。又。日。の。後。二。日。と。三。夜。七

ハ。夜。腹。り。武。の。脈。り。後。

い。ふ。大。便。甚。き。る。る。有。

是。湯。を。ぬ。れ。ち。り。ち。り。

あ。り。て。未。用。む。べ。し。ず。其。

は。湯。に。入。む。べ。自。然。止。

む。但。諸。人。は。移。り。た。り。

す。大。便。難。す。む。大。便。功。

少。し。又。食。す。あ。ふ。便。滞。り。

食。事。に。入。る。と。大。便。少。き。

や。う。と。そ。あ。る。も。又。お。熱。れ。一

種なり

湯治れ後入湯の日数程

乃の湯をほふをのぞく

姜炙す大のすといふ程

あやうりり。炙治す

痛む。湯治れ中も

すべ。湯いり。相應す。湯

の及ぶ湯なり。又度

中宿る。又る。へる。く

ふ。い。り。

湯おぬす。大のす

あ。い。り。く。る。は。病。生

ころ人あり。酒合

すべ。い。生。冷。れ。ぬ。

冷飯乃。い。い。べ。

い。地。え。来。水。海。を。あ。る。

あ。て。乃。れ。氣。候。不。正。上。湯

治。を。汗。さ。り。じ。毛。れ。完。び

け。バ。風。寒。に。感。ト。易。く。感。る。

水。腫。傷。寒。に。恐。り。然。る。後

用。べ。い。分。論。ゆ。り。乃。中。風。を

水。氣。軟。牙。ち。い。ん。う。う。す

乃。の。す。咽。に。ゆ。り。て。後。湯

治。の。日。数。を。右。れ。候。ゆ。り

辛

よめりき湯とてぬ
ほじりや病人とや。い
くくんにあつてゐる病
病のうらなはちや。ねど
おれ人病人のゐるやとい
す。先眼をん功がとて金
をのぬり。中れ湯の害
とあふ人まきこゆあへ
よめて中の湯をせと毒
湯はまぼけとて人此
湯をれをわて入るや
あつてあつて。此道理

ゆ。中の湯入ても。害ちた
人もあつて不審きや
す。とてあふ。〇眼を痛て
終に眼を痛て固て人
が人あつ。人のまきや
て。此あふ。何この湯
へて。よくあつて。あ
あ。〇。あつて。あつて。
中の湯入。い。病。中
湯入。二日。あつ。あ
あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。

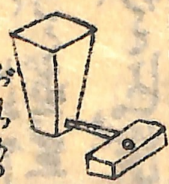
つず。食ともくみず。ササ
の。あつ。と。相宿の病。傷。い
根。子。を。あ。み。親。切。と。も。そ。
向。と。わ。る。身。ど。う。の。う。い。
と。あ。う。り。う。伏。け。て。傷。を。ま。お
せ。う。れ。足。湯。け。多。い。あ。ぐ。
あ。う。ゆ。ふ。こ。を。入。ぞ。り。と。て。
自。然。排。り。け。重。い。と。う。い。
て。あ。う。ゆ。こ。入。え。う。せ。り。ま。は。
た。ら。ま。ら。氣。を。通。あ。う。と。て。
食。を。と。み。出。さ。せ。受。と。る。心。地。
付。既。瘡。う。と。た。は。既。より。膿。出。

あ。ま。瘡。の。で。く。其。ね。い。り
間。に。既。瘡。甲。の。で。く。す。り。あ
と。ぬ。け。く。落。と。り。り。ま。は。珠
し。と。と。今。う。ら。あ。り。て。ん
たり。と。ま。後。に。既。に。候。と。氣。と
ゆ。と。後。に。瘡。毒。の。根。を。ぬ。い
る。う。い。人。已。に。席。に。座。と。ふ
こ。う。う。と。候。傍。に。氣。は。と。て
を。う。て。ぬ。し。この。一。命。を。ま。か
つ。み。信。の。恩。と。と。後。め。う
祥。厚。謝。し。て。あ。と。り。る
と。ち。う。り。

又あるや。とちのふじに瘡
 まくを。同じふさう。背に
 瘡をひきひふらうて。母
 子難をみるあふ。其瘡の
 人々ふ湯治しけるは。いと
 世末をさうするに。あつたれ
 ば。さうと。搗國に付。中れぬと
 海を。竹舟に。へらぐ。おぬ
 て。彼に瘡をひき。付たれ
 ば。二三日に。瘡をまゐらう。
 子も母も。怪む。限は。終る
 不。俄に。小思。病か。ころ。金。

紫又又成て死す。と。は
 さく。あ。け。れ。ぬ。と。は
 か。中。の。湯。に。害。め。白。く。
 毒。湯。と。ま。へ。づ。ん。や

謝温志之圖



右を奉。御。系。あ。け。く。瘡。瘡。を
 人。取。門。ひ。わ。て。湯。す。わ。て。る。具
 なる。を。あ。ふ。人。に。後。宿。て
 備。用。也。と。

○湯治難詰

湯治の者、考へて世に
流ひて湯、移まじ。標
時、まゝ、是のふまゝで
湯に入らぬ。二、休
し。翌日、うへて
用意、金銀、服、其
大切の物、ふ包、名れと付
て、湯に入て、うへて、ま
き付、用、うへて、湯、

移る。ぬまれ。ぬま
まゝ、ぬま、ぬま

湯、翌朝、自分、世、ま

まゝ、たれ、ぬま、ぬま

肉、分、世、ま、ぬま、ぬま

湯、油、塩、湯、油、れ、頭、其、分

一切、宿、附、の、商、人、うへ、通、し

ぬま、入、ま、ぬま、ぬま、ぬま

湯、入、ま、ぬま、ぬま、ぬま

湯、入、ま、ぬま、ぬま、ぬま

湯、入、ま、ぬま、ぬま、ぬま

一日ふ。二夜つ。老をい。確
他へ客のふ。あ。と。酒。素
い。宿。う。う。出。は。え。い。二。煙。受
れ。め。へ。自。分。二。酒。で。宿。へ。お。て
て。一。夜。代。一。旦。う。二。女。の。外。
又。そ。う。外。た。れ。出。一。代。え。
初。合。一。旦。う。四。五。外。湯。口
の。れ。の。う。う。勿。論。自。分。世
夢。に。す。う。耐。へ。た。あ。代。
三。と。む。う。う。ち。う。う

幕湯 大幕湯 切幕湯
代 向 あり あり

へ。と。う。て。は。人。け。と。て。て。
し。や。う。う。う。ま。だ。か。さ。へ
が。お。文。身。は。痛。不。あ。人
ち。と。長。難。あ。ち。う。あ。と。
幕。湯。に。す。べ。幕。湯。は
す。れ。へ。湯。女。人。と。な。う。く
へ。て。其。上。と。あ。だ。こ。つ。じ
う。ず。う。う。て。内。で。す。入。ん
う。幕。湯。一。日。ふ。二。夜。つ。
湯。女。う。い。ふ。身。る。幕。代
一。夜。あ。一。旦。う。六。五。て。人。お
れ。多。う。う。う。幕。湯。へ

食類

酒造年ハ上酒アリ味

おぐー

茶たむとようーのきお

おぐー

豆腐はてんぐ豆類

にある。さるすうのりし

海川の魚たさん之味を

さ。伊勢れど。より一千種ハ

名あまそふごそ産物之。

明やうる並におまけい

味芳り

香お甚とろーのりど。

ふーちのぬお

おぐけ。梅がー。昆布。

ひん。おれお梅菜長。

お油るおぬと吟味をた。

たすのぬおぬとすてよる

ーきも有あり

おぬぐひゆわ。越中ふ

じとよひゆわ。西て千のる

お有。おぬぐけとつてよる。

湯釜思ゆへ。年々自由

ぬ。勢ちうり。万事進とふ。

酒べーとさくさく

かーお ホニ味飯

蚊帳一斗

よだ 一斗

ぬん 一斗

右大いそいへ備へる是

みやげ

柳 ヤナギ 柳細工 湯 ユ 湯 ユ 湯 ユ

楊枝 ヤナギ へく へく 宮津 ミヤツ 備 備

むぎ むぎ 細工 細工 煙 煙 名 名

○湯 湯 湯 湯 湯 湯 湯 湯 湯 湯

味 味 味 味 味 味 味 味 味 味

温泉 温泉 晚鐘 晚鐘

わ わ 泉 泉 泉 泉 泉 泉 泉 泉

松 松 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎

松 松 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎

桃 桃 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎

桃 桃 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎

戸 戸 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎

と と 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎

細 細 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎

ふ ふ 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎

結 結 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎

きぬ春におや衣のせとてふ
月にもたふ天津のうぶ
る比久照

けいの漢とては日めちの
花もまがへらうとてふ
津山陽帆

三帆所航風をかせこねた
ゆつは山の海のはりふ
未代山温泉寺

本より十一面観音はり
六人余響よん作と他
道智と人の用基湯禁

悲別南坊之毎年三月
廿二日用公忌後終あり
せんが湯へる智上人

加持ふたりを武帝の
殿受み達一未代山温
泉寺とみこのう有と

宝塔 本ま
末師堂 温泉寺
の麓

鳩の湯 玉解をのふ山
あり者疵とめへる
はりてうあふり

極楽寺 量と家院
の西 経家
獨結水 極ふ寺の麓より

石智海を新玉を福結と
りりてうあふり

四所明神 中の所のうと
有是出るの休乃

勅詔、湯嶋の法を之

蓮成寺
三

未考

活之湯塚

室と和勝と又又氣比村の二所
山のふもと塚有勢中流と美濃

壽永の乱より後にあり雲代判
友といへ者の程よく云ふれと

一人は女まがたういふは藤金、

實迹を以て不可く恥ぢるは余の
徳を其妻より恥ぢる家と爲る

其後湯曉ハ徳人仕來リ死スルニ
後紀のより又ハ松勝より多し

供より人のあふ武士の母さん
りねとろよふ今も花に下はほろ

一
 日よりこのふれ在
 一
 の社あり

鳥帽子トリバタ 日ヒ 數カズ 宗ムネ

八重岩
いそふね
いそふね
いそふね

川口

[illegible]

諸卷
くふふふのふふ
ふのふふふふふ

かゝうなるに里人のまゝを
とるをがうとる佐老のまゝ

○猪の寒おとほもさる
ふんふんおとほもさる

三
緒言大明神
右日本権五
社の一なり

田居村

小比村 いしにちむせ
の村にあり

小一岐 いしに村の東の
やうな地

津居山 いしに村の西の
山にあり

津山

津山

津山 いしに村の西の
山にあり

津山 いしに村の西の
山にあり

津山 いしに村の西の
山にあり

津山 いしに村の西の
山にあり

津山 いしに村の西の
山にあり

津山 いしに村の西の
山にあり

津山 いしに村の西の
山にあり

津山 いしに村の西の
山にあり

津山 いしに村の西の
山にあり

津山 いしに村の西の
山にあり

津山 いしに村の西の
山にあり

津山 いしに村の西の
山にあり

津山 いしに村の西の
山にあり

津山 いしに村の西の
山にあり

津山 いしに村の西の
山にあり

津山 いしに村の西の
山にあり

津山 いしに村の西の
山にあり

津山 いしに村の西の
山にあり

津山 いしに村の西の
山にあり

津山 いしに村の西の
山にあり

○但列城跡於湯治

通一竹葉病也金銀

美大坂人其富

倫法所植檀木入丹波谷名主

梅檀木於此町南丹波谷或

法源町東邊入そのまや跡

法源町一南法河内名主七

法源町瓦所も其跡金銀

系於人足右

馬丸色松木下 傳る名

本四段松木下 小本木動

本四段松木下 小本木動

六角馬丸入 元源金銀

越中前鎗木師止 丹波や七

室所跡小法角出石屋小

松木通宝町廻りや跡

小まゝ山坂も跡不

ハ不達者なる人通一か

跡多し。二月八日まてハ

陽治、四日名。九月二月

とハ曲豆岡 跡もさうと。四日

とん。跡も少くハ人足宿、法

一と一。掛同一貴同付。傳

跡も。京大坂よりハ。跡

も。一。六七日より。又傳

によう十日船からまきこ
はまばあ底より度一發
はあぐやまうして一か
陽は宿のあてあれ付れ
係状ホてあんのあきる
あ入用れふい自分持来
あへる一持来あお掛
同五六費目であふ人
産てより屋中小あは
時あより不自由之東
かてやあより陽は
も同まかり

右に用ある人へあきこ
夏宿へ東内すねば人
て對候の上刻をあ合け
恥を出し性あ人氏あ
宜あ世話した

○賃銀定

大坂からい
なやを國まで

一通いご

四日あ二丁 甲子

一佐あお人

八費目持四日あす

豊岡納屋
大坂まで

一通一かど

四日辰二丁 四換四丁

一休斎お人里

四日辰八メ同お 廿二反

京お公石豊岡

一通一かど

四日辰二丁 四換式文

一休斎お人里

ハメ文持四日辰十九反

豊岡お京と

一通一かど

四日辰二丁 四換式文

一休斎お人里

ハメ文持四日辰廿二反

出るお京と

一通一かど

四日辰二丁 四換式文

一休斎お人里

ハメ文持四日辰 廿二反

右のりまて銀代新用。ワテ

ちう。あて大五。い。あ。と。と。と。

日と。府ハ。か。と。二。丁。あ。二。日。辰

す。一。換。一。か。ど。丹。後。お。り。と。

日と。時。ハ。の。三。換。辰。と。四。日。の

い水よへる候へ丹波堂の
出法路川へ落大井梅津と
なせり候へる。あてり候へる
りりり

●酒芳寺 姓○ふ田村

上下二村有 ○文徳帝車殿
田村もそ

○河津村 旧寺殿 ○河津村

○二町縄 〇

櫻木原 陸川より
おんより

町をくまひく七八丁経
か味くらふ小坂あり

○坂原村 ○大原野

ふくむあふ原とほとど

休をあがりし一里塚と
酒吞童子が首塚と

○王三村 舟湖の地蔵さん
の森。王三社ん

○篠村 八幡の社有。その氏
あれた時、おとこをれ

一社あり。軍兵矢を納りし
矢塚といふあり。社のなかり

廣ろ かいの坂より
二十丁

○るほり村 ○かむ系村

龜山 ひろたふとれへ土
をいこまな町あり土橋

丁あり

松平紀伊守殿 五万石
松下あり

△右そのべ但る 桑山の川東町
左山貝原より後 立石ぬけ

△ 龜山の麓にありて三田城の公
庭へ出づ。後と載せしむる
なり。後、宮山とある。二つを
元は、退かたの山と云ふ。

● 出雲大社 西の小本

● 賀生寺 大坂にありて、
西にありて三丁上

● 宇津根村 ありて

● 並河村 ありて、
并河村の社あり

● 小林村 ありて

○ 小門村

● 高卒都婆村 小林より
十三丁

● 八原村 ありて、
ありて

● 八原村 ありて、
ありて

● 八原村 ありて、
ありて

● 八原村 ありて、
ありて

● 八原村 ありて、
ありて

● 八原村 ありて、
ありて

● 八原村 ありて、
ありて

● 八原村 ありて、
ありて

● 八原村 ありて、
ありて

● 八原村 ありて、
ありて

● 八原村 ありて、
ありて

● 八原村 ありて、
ありて

● 八原村 ありて、
ありて

● 八原村 ありて、
ありて

● 八原村 ありて、
ありて

● 八原村 ありて、
ありて

下川谷に下る。往々水が流る。

丹波田原の山を越え、

○大井村 ○井尻村

出江村 十二丁

此山を越え丹波田原の山を越え

○大井村 ○大井村

水原村 村早邊 出口村

と大久保村

下大久保村 村あり あり

此山を越え丹波田原の山を越え

○大井村 ○大井村

水原村 村早邊 出口村

と大久保村

下大久保村 村あり あり

此山を越え丹波田原の山を越え

○大井村 ○大井村

水原村 村早邊 出口村

と大久保村

下大久保村 村あり あり

此山を越え丹波田原の山を越え

○大井村 ○大井村

水原村 村早邊 出口村

と大久保村

下大久保村 村あり あり

-5 345 35 645" data-label="Text">

此山を越え丹波田原の山を越え

丹波の人へげふのつもと

○久和市村(荒河川) 丹波

荒河村 丹波 二十丁

△右 丹波 丹波 但る山石乃

石乃通ふ丹波 丹波 丹波

人へ丹波 丹波 丹波

てる 丹波 丹波

丹波 丹波 丹波

立平村 丹波 丹波

○野 丹波 丹波

丹波 丹波 丹波

△丹波 丹波 丹波

丹波 丹波 丹波

○いのを川 丹波

一の宮 丹波

○右 丹波 一の宮

本宮 丹波 一の宮

本村 丹波 一の宮

右 丹波 一の宮

一の宮 丹波 一の宮

一の宮 丹波 一の宮

一の宮 丹波 一の宮

一の宮 丹波 一の宮

一の宮 丹波 一の宮

一の宮 丹波 一の宮

○の 丹波 一の宮

仙石神社 仙石神社

○仙石神社 仙石神社

○仙石神社 仙石神社

△仙石神社 仙石神社

川端神社 川端神社

後宮 後宮

その その

出石舟問 出石舟問

本座 本座

い い

い い

か か

一 一

修村 修村

み み

○ ○

豊岡 豊岡

入 入

所 所

● ●

小田井 小田井

● ●

● ●

● ●

● ●

○豊岡の湯治と陸地の距離

不承谷川より湯治まで

赤合寺人 三十五

毛熊谷切 貳百八

但し八人乗定之八人より上も
も人若きま

杖箱一箱 二人乗

手箱二丁 二人乗

足箱一箱 二人乗

やうやう箱丁 五人乗

きりか 諸人の着る服品を
包ふ。あちんちうり

手箱を乗る箱。座り。きりか
人足は手箱。世帯のくつや。たの

し。日寄てあちんちう。二箱
し。おき。あちんちう。二箱

ゆわぐり。出立は本日。又。あちんちう
で。あちんちう。あちんちう。あちんちう。あちんちう
あちんちう

○豊岡舟同や

馬屋七方より
伏屋へ去る

伏屋へ去る
箱屋へ去る

○豊岡湯治と陸地の距離

右 左

あちんちう 一月市村

大湯村 二日湯

赤上村 湯治

赤石 湯治

あちんちう 湯治

あちんちう 湯治

○市土産物

押さうす法市のだら茶

のやうに仕立て上げある

本味。はるばる。海苔をいれ。うま

み。さうじ。うま。はるばる。海苔をいれ。うま

湯の花。上。右。か。紙。ま。ま

一切小間物。本。子。葉。有

○貸物

本。三。味。線。加。三。八。報

右。報。子。加。三。味。線。加。三。八。報

右。報。子。加。三。味。線。加。三。八。報

但馬湯

二回

大坂。小。形。名。雨。寺。を。あ。し

い。ま。ま。○。三。番。村

十二村。一。リ

村。を。出。て。門。有。○。坂。村

○。今。里。村。○。三。津。村。○

加。藤。村。○。三。津。村。○

神。崎。一。リ

三。津。村。○。三。津。村。○

△。三。津。村。○。三。津。村。○

本。海。を。あ。し。だ。陸。地。を。あ。し

小。形。名。雨。寺。を。あ。し

冬知寸壁
○下板

一り

○南陽村
太王保丹
とる

富田 堀江
一

村と出で大池有、名池之謂

○市野村チノ ありと云ふを垂さへ
そらうにあり

身石 ○姥ハハが榮ハルや○あふ

村 少乃四支此札不
中云云乃乃之

小溪村

以新て伊丹巡るのたふ

新文之西長一〇 米石村

○川面村
一 名

瑞野云々不承ふと上寺
あり是れ之教音有西宮の石

生漆村
小石谷
一り

入江之水

右生澗門車前小方此

西遊記（西遊記）の巻名

有本車村の松雪乃が歌也。

五方水土生民之理

三ノ母、授足、安之。

○なる河原の里を

たねはあつた
十丁ねえ

坂といふ所 ○此のり村
是より二リ

名塩 一リ

け村とて名子紙を瀬原

と名塩紙具なり

東久保村 二十丁

○獨結水 是より二リ

と早丁は名子紙を瀬原

坂とて名子紙を瀬原

と名子紙を瀬原

平田川 橋戸 ○日下村

名塩川原 二十丁

是より二リ

△是より二リ

名塩川原 二十丁

と名子紙を瀬原

○名塩川原 二十丁

と名子紙を瀬原

と名子紙を瀬原

と名子紙を瀬原

と名子紙を瀬原

と名子紙を瀬原

と名子紙を瀬原

と名子紙を瀬原

と名子紙を瀬原

と名子紙を瀬原

月。休むあり。智と縁を。諸家々々
しく。仕へるあり。あやしく。とく
て。踊りおほく。様より。
星と三輪のや。余の
○川除村

○大魚村○後河村○忍比村

加茂
本名并
沢村
二回
一リ

▲ 廣野 けのの けのの入口にふたに終る。
なり。たゞ終て。なん
な。たゞさへなり。

○長坂村（長坂）入口に、鐘立松と云ふ所有。古名云。國幡也。

新田村
布薩新
田之
一リ

藍井町
新田
一

枝葉出ては出坂と云ふ六丁
 の坂有條へ橋丹波橋之○

荳蔴村○油蔴村油蔴

古市

星樓列於江海之

△村を出て、車にのりて、
二里ほど走ると、

川
び
あ
う

● 石井寺
お市のおのこ
うてなお茶有

波が矢野 へまの社あり
 候こそと名無有 ○矢

代村○大村●
龍藏

のまゝに

味間
ろりま

右市
一りま

○古^こ之^の村^{むら}

△そこ水れおどろくけ跡也

まがらうらひまがらうの跡

おきあひまがらうの跡

○おみ村おみ○おみ村おみ

きほえ中あふり ○大い大い 進入

一りおのる。ふとと。中村
下村おのる。ふとと。中村

△大いれけや。ふとと。中村

おきあひまがらうの跡

ふとと。中村

後智ふたふたをり。ふとと。中村

○官村官村の境者ふとと。中村

進入村

二りよ

古市ふとと。中村

△丹後名ふとと。中村

坂をのり。ふとと。中村

○圓外圓外一里一里有。ふとと。中村

一り。ふとと。中村

う。ふとと。中村

お。ふとと。中村

ふとと。中村

○後。ふとと。中村

ふとと。中村

ふとと。中村

ふとと。中村

下で世丁ごんも新ふく

大倉 おき 一リ

村久の斎神社とよんまを

貝原 かいげん まる

織田の城守殿とよんま下町也

○懐社 かいしゃ ○高村 たかむら ○おひ村

石負村 いしひ まる

入石多と入多くは出

▲庄 しやう 庄の後智ふた村の中

程よ小地 つち ありておひてた

ハ他もた之 これ 庄とておひ横田村

れはとね これ 庄とておひおひ

たなりは中へ他るる

水上村 みづのへ ひとより

○櫛 くし 櫛村 ○柳町

所町 しよ ひとより

出 で 川 がわ 有 あり 毎 まい 一

▲川 がわ 有 あり 庄 しやう 庄の後智ふた村の中

○西 にし 田村

佐次 さし 月町 つき 一リ

出 で 小川 こがわ 有 あり 毎 まい 一

○板 いた 谷村 ○中 なかつ 谷村 ○ふ

板村 いたむら 村とよんま。左に細中 こなかつ 上 かみ 板 いた 谷村

大居士とあり。おひてハ板 いた 谷村とよんま。おひの板 いた 谷村とて。おひてハ板 いた 谷村とよんま。

者民不れわれなり
たり玉ふと。ついで

平次 一リ

を坂村の土下りふりあり
を水は一画は海をふりあり

を坂村 まじふ
まじふ

○を坂村の土下り。休は坂の
本。大なる。丹波但し。界

あり。大なる。休は坂の
美。大なる。休は坂の

を坂村 まじふ
一リ

●栗鹿大の休 まじふ
まじふ

を坂村の土下り。休は坂の
を坂村の土下り。休は坂の

○和佐田村○わが村

矢野村 まじふ
まじふ

○栗鹿大の休○玉木村

○竹田村 まじふ
まじふ

和回 まじふ
まじふ

△湯治の湯。坂の土下り

人はい和回をふり。休は坂の

○中市場○土田村○

宮田村

一ノハ丁

是出石記

高田

○水苔大の林 但る入社
の一人ぞ
大の林ともて入。至北の二月
廿八日。本社の大木社の下。ふ
石あり。石はあちをんとし。ふ
番。何人をもさうしてゆれば。番
に属するといふ。属する。ふ。番
もあり。又二丁おくふ。ふれにの
林ともあり。信をばく入林あり。
田畑を抜き。あちをきいて。
おとば。信のて。身をつ。ふれ林
より。やぶ。隣村へ。ゆけ。た。あ。れ。ば。信
が。ゆ。り。あ。す。
と。あ。る。一。○水苔ふ番
賢奇 だん 村の但ふあり。本そのま
葉。ゆ。そ。ま。ゆ。の。末。ふ。ん

○ヤ長父橋村○大や川

但 因のるようなる。

一 々
二 々

○下之村○大森門

○大森村 ハニとク
ハニとク

のりへて寺あり古墳あり。
新田城より赤松より播磨秀
寺長又庚子十月は八月二十
之方。遊と云ふべし。城は古田村有
小田

▲此村江中江と灰砂ハ

豐固乃之也。出入乃之。

小田
十丁

之。公。後。食。之。以。力。
不。忘。第。一。之。人。

○法金丹

○流中川 （橋） ○若中村

○雲田村 （青田） 田二

江原 （一）

○日産村 ○伊後村

○土居村

小川 （一）

○あ生村

い里 （山）

納屋 （二十二丁）

い不同屋あり大坂より

のち （山）

湯清、四里の万ふら

てう （山）

同 （山）

赤坂 （山）

塩や勘十郎

町 （山）

のり合 （山）

七ツ附より二人

侍人 （山）

又 （山）

のり合 （山）

一 （山）

一 （山）

一 （山）

一つら一房 二人木

一宮よど丁 一人木

右ふ小旗人の為あり

まじつふいびつてす

○佐野○九日

豊岡 こよとろ こやとろ

町長——出町と云ふ所

佐に茶や者出るあり

午の休あてはる。湯治

とぬる。まふれん中記より

湯治と。是より○大坂

湯治と。是より○大坂

播磨より

大坂梅田かたへ○大仁村

○群里村 へはし川 ○佃村 うづみ

○尾己の渡 尾を渡入

おのゑの渡

尾崎 大坂より

松更遠江守殿 四万

法城下之但大坂ごこり

合ふに有 一人 ●大坂

浦 後田 ○大坂の橋 四万

坪の里 河合 ●秦れ武

文の屋鋪はい道有は日

石塔之洞の深有○下

川●早山石●難波の里

八丁あり●猪名川●琴

浦の津●新田村有●

武庫川●中より不日○

河●枝川●三村

●村●合

西宮●尾崎

西宮太神宮●

廣田社●河

●宿

●河保

親王の所●

○お出宿●合

●

○●湯

●

○●

●

○●

○

●

●

●

●

住吉神社 秋吉にありて有。蓋ねのし。よてのなり。

○石川 石川村 ○さくら川 ○挾井 と所の

○河原町 ○桑村 ○三浦 桑村の

○寺内村 ○求塚 つみ塚

目村 目村一ハ ○唐耶山切利天 唐耶山の西

上寺 寺。坂十八丁。茶ねに城下の

布川 布川の ○布川 布川の

船浦 船浦の

船浦 船浦の

○生田川 布川より川を

○生田の森 船浦の

城 城の

神戸村 神戸村

宝勝寺 宝勝寺

楠 楠

有馬道 有馬道

漆川 漆川

小宰相 小宰相

兵庫 兵庫

尾崎 尾崎

○尾崎 尾崎

○尾崎 尾崎

○尾崎 尾崎

○尾崎 尾崎

●飛松 板倉村有蓋
家の名を不

月見松 板倉村有蓋
家の名を不

●松列松 板倉村有蓋
家の名を不

●松平松 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

須一 板倉村有蓋
家の名を不

琵琶ヶ嶽 ○おんらぎ嶽

○駒ヶ嶽 おんらぎ

○仲哀天皇陵 いんよ

て、一ス多れ臺 ○赤子天皇陵

○鳥渡 ○山田村

大倉谷 一リ

●綱お天神 大くろ岩

迎ふはくへ下 人丸に社

及ふ三丁 人丸本郷は七

社 松平日向

●忠慶塚 人丸への

○明石

松平丹後守殿 下

○大沼川 ○大沼新町 北

大いぢや 大いぢ

月曜 大いぢ

村 ○小久保村 ○赤田村

大久保村 一リ

●野中 一リ

●神出 右の清水

○三軒家

金湯村

長池村 二村

△是ふ海辺、出てる砂

出石方射方村に射方と云ふ所振にたす

○清水村是より清水と云ふ

○原南原南と云ふ

○新田後里村

○太山村

○高畑村高畑と云ふ

西谷村西谷と云ふ

○新立家村

○坂本村坂本の清水有

△山村山村と云ふ

○山村山村と云ふ

○山村山村と云ふ

○山村山村と云ふ

○山村山村と云ふ

○山村山村と云ふ

○山村山村と云ふ

○山村山村と云ふ

○山村山村と云ふ

○山村山村と云ふ

○山村山村と云ふ

○山村山村と云ふ

○山村山村と云ふ

○山村山村と云ふ

○山村山村と云ふ

○山村山村と云ふ

但るなる重き山天日積た

○小村草山草山○若坂若坂今

為坂為坂○大王大王二リ大茅大茅○若若

出群出群者休不者休不○辻川辻川二リ辻

川川○河内河内七千餘七千餘○川辺

○十丁川十丁川○金取金取○十十

●牛堂牛堂○圓分寺圓分寺○田田の

ありま言ふふ餘三十八年寺の

○乙級村乙級村●羽尾羽尾○山山

○市陽市陽村村○市川市川○市川市川

○紙石村紙石村○甲府甲府村

飛飛路路

酒井雅樂酒井雅樂○城下城下

○熱社熱社○社社○社社

社家九村社家九村社係一社社係一社廿一年用

七月十二日七月十二日○龜山龜山本

徳寺徳寺○船場船場本徳寺本徳寺

●饒万饒万の里の里○房

里村里村○里里○里里

△け野里け野里○たけ板坂たけ板坂

○増位増位○隨願隨願寺寺

二百八十八石二百八十八石○廣津廣津

社社○社社○社社

○白帶白帶○山山

のり西より。●書寫山

教者 西國正七表。ち八面亦
こふ天台宗。本ちやま

勝教者。性空上人宗
基。作ぬふニリま有

右四のふ、まう。新町、

出るなり。ふふまも

まひんも。ふどてま

○砥坂村

仁豊村

○太田村

溝口村

○まろ

新町

右より板坂越。増後、

まけふ、まふなり

甘地

○近平村 ○千原村

○後渡村

屋形

右より乃をな。ま

入の川あり。ま

○大内口村

○後本

栗賀村

其元は曾の族。ま
以是と云ふ西茶つる

五十一

いふより。後、余幸とて、所
幸あり。えき、秋よりいづく、た
幸を。○ようどの、春、日、社
あり。是とて、
ふり、ふり、
ふり、ふり、

三十丁上

三才
者
○
少
壽

一 本 校
一 リエ

○遊上作とて小極あり。

主
馬村
主

次ニ門あり。さうな格ふなり。菊
ニ大衆大の林乃雲ありなり。

ふい上る
一リ

生形銀と乃入乃里

口川あり。き水涯に

小坂之伝播の
さへなり

○ 泰山

高邑 卷之六
二十下

勝つて
 事ある

○下

村々村

二十

第 二 十 二 回
第 二 十 二 回

趙家莊

ニリよ

いふふ。けふ。多く。職。出。て。

又竹田様とて森末

成りし出○牧田村

和田山 一リ

△くまてこ田城と云

合おる事と云ふ事

岡もどの屋中附ハコ

田城方不ふあしゆへふ

やにわさうと云ふ

三田 一リハ丁

本久 三田ハ丁

経場 ヤブハ

小田 一リ

江のえ 宿み 小田ハ丁

江原 江のえハ

おさ 一リ

納屋 一リ

豊岡 二丁

湯崎 一リ

大坂より田村まで半

里オハ丁オウ

後智山が丹後と湯

徳と及中記

後智山 是より河守まで
三里あり。わり切

接ム。六石又後。茶合も。雪う
る。一町の中をのりてあり

荒沼村 名は 後智と
凡五丁

▲村とがまじう 本文津及
た出る

○うろーぐと 船る。たの
がけ

あまて。ま難 ○やぎ川

川の細く ○是と村

天津 名は 荒川が
一リ

●鬼が城 天津よりま
ある。ありあり

○さぶのき川 ○境川

此門丹波丹後
のさふちり

上座村

一リ

後智山より紅雲あり時表
によりては後智山も。あやの
ささきも。○たてつゝ村

河守

乙座
廿五丁

○外宮

河守の内へは
五丁有。宮もあり。

雄略廿一年十月。神勅あり
て。あま七月初七日。今の伊勢
ふろくも。ゆへ。○川田村
本いせこふく

○二股村

内宮

河守
一リ

村のいへ川有。又川と云。
橋は言は橋と云。本社の

茅ゆえ。今のはれ

下。各居の照る

親方。境内はと親枝。

日本。四本けき。相生

榎。式本は後と云。後

のちこ橋。新やうど。

雲。相ひ。二本枝。杯有

▲社より。所へ。座うど。

社をたへ。り。後。は。樹

を。た。う。えて。ま。難。お。を

り。多。み。六。丁。あり。て。天

の。名。を。い。ふ。る。あ。み。社

あり。系乃各底ニ御生
鹽^{しほ}初生湯の釜と云

云有り。是よりみ六丁

出^で。併生寺本村出^で。

六丁経終て。土橋有。併生

寺出村人。土橋紙より

す。たねだ。且い異

事。たねだ。をり。たね

す。花物あ。ば。云用

佛生寺 客中 内裏

○葛社がゆり 葛社社

所。い坂中の里。○二河

是。葛社合の河有り。葛社王
たねは。雲降。たね。ま。たね
たね。たね。たね。鬼。鬼
たね。十。所。多。ね。鬼。鬼
鬼。鬼。鬼。鬼。鬼。鬼。鬼。鬼
鬼。鬼。鬼。鬼。鬼。鬼。鬼。鬼

○赤岩嶽

中の系屋 併生ちか

併生ちかの坂。中。併生ちか

併生ちかの坂。中。併生ちか

併生ちかの坂。中。併生ちか

併生ちかの坂。中。併生ちか

併生ちかの坂。中。併生ちか

併生ちかの坂。中。併生ちか

併生ちかの坂。中。併生ちか

上宮津村 じみやう村

是より定附まで。並木松原
のたのしみなり。今福より下
流なりなり

宮津 みやづ 宿屋を河上宮津より
大宮まで海に寄るなり

松平忠房殿 七万石

河城下 河城下 龍宮の傍るを
多し。縁起なり

○宮津の林
大己をそと

少長をそと

△宮津の河原所

ひさしより。名所と云ふ

に。みとよりなり

口里なり。みちなり。切。高
く。なるなり。空なり

うちより人なり。うちより
切なり。なり。なり

みちなり。なり。なり

若津 わかつ なるなり。須津 すづ なるなり

とて。大の重なり。なり

西より。た。陸なり。なり

系。系。系。系。系

なり。なり。なり。なり

なり。なり。なり。なり

い。頂津 いたづ なるなり。なり

○大乃 おの 海なり。なり

なり。波。波。波。波

なり。なり。なり。なり

あり。あそねのまふあり。

まゝに尻ふををふ。二の穴

ぬれあり。およのうへ。並

本間へ。おろちあきでー

○江尻村 （常宿。指立は別橋を湯焚湯といふ）

江尻といふ。○一の穴 （二位といふ）

四林といふ。是ぬねの取口。右林其の旧地也。其地をふくふ。不有。往家より。なんだれは後と云

▲江尻より。大氣より。江浦

まで。一。黒い山。山海の介

あり。伊保の浦。浦崎に社

竹原郡細井村あり。後選のま。ゆてふふふふ。ふふの江浦。路のまをとりいやり。

骨文殊い。ほまの林。琴。強

漢。ふを漢。右。鼓。漢。と。ふ。ふ

黄の漢。生。久。黄。味。か。河。路。い。ま。と。も。後。東

行。二。点。路。れ。と。あ。う。れ。と。行

い。き。あ。う。り。病。お。い。持。り。ご

細川あまふのふ。二。根。あ。ふ

其のね。ふ。ふ。ふ。の。ふ。ふ。て

あ。う。い。き。た。う

三。の。備。い

色。合。ふ。成。相。寺。見。ま。に

○弓川本村 原清部

なり。比味なり。いふ難なり。味より
小く。向ハ。格主の系。か。ま。白。山。
より。松。尾。山。丹。後。由。る。山。城。系
の。こ。と。で。い。ま。う。り。ま。終。ま。り

三々 寄江 長瀬

○三坂村

大野村 三重 北丁

△大野平 四八丁出て大

野ハ。京極浦後寺尾ハ

城下。若山。湯。湯。い。た。え

○若森寺村 長瀬

長岡村 寄江 大野

○新次村 長瀬

二箇村 長瀬 北丁

い。ま。ま。う。信。通。七。城。出

○八戸村

味宿 二重 北丁

○比治山味

佐野 味宿 一丁

那中村 寄江 佐野

橋爪村 寄江 那中

○堺村○友老村○天

町山本新寄 とうき村
のりきふ

有。澤土家。新基の宮基言
本る所休庵の更ぬあり

久美 くみ
一リ

河代兵屋鋪有。本村

小海松を賣 ○久美

味 三原味と云。所より十四
町。有。八海之。後。志。後

多。丹。後。但る。玉。後。より。江。尾
より。浦。也。と。云。て。云。り。き。う。る

○飯谷味 少の飯谷り。七
成の味。後。あり

○飯谷村 久美。八。是。を
休。不。う。

樂く湯 常。三。一。久。美。か
二。リ。上

是。か。湯。後。と。す。乃。の。局。永。後。下
飯。谷。か。一。人。新。基。三。文。を。云。り。云。り

接。久。湯。後。と。云。り。の。湯。と
十一。久。飯。谷。と。十。と。云。り

湯 湯。と。云。り
す。乃

後 後。と。云。り
す。乃

乃 乃。と。云。り
す。乃

但 但。と。云。り
す。乃

加 加。と。云。り
す。乃

個 個。と。云。り
す。乃

馬 馬。と。云。り
す。乃

但 但。と。云。り
す。乃

文化三寅五月改之

書 京都 平野屋茂兵衛
大阪 綱屋茂兵衛

林 同 秋田屋良助
同 藤屋彌兵衛

